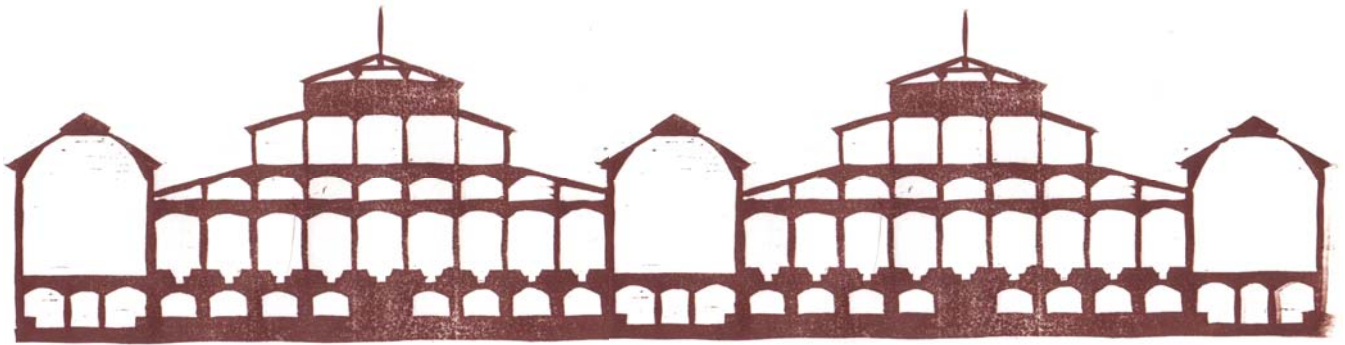


# レ・アール パリ中央市場

## レ・アール建築に至る経緯

フランス革命後、フランスにおいても徐々にではあるが産業革命が進行し、鉄やコンクリートなどの建築材料が、使用されるようになった。建築物も寺院・宮殿・劇場といったものに加えて、新素材としての鉄やガラスを用いた大スパンや多層階構造の工場・市場・駅舎などが台頭してきた。

建築形態についても、形や空間のデザインよりも、実用的な使用目的を持つ、機能的な建築物が望まれるようになった。それらの建築物は投資対象ともなったために、経済的な合理性も追求された。



鋳鉄を駆使して10棟建築された市場建屋、棟と棟はガラス屋根付きアーケードで繋がれていた。(KS版画)

## レ・アール(中央市場)

セーヌ川北岸のパリ1区に、12世紀以来市民に親しまれた市場があったが、1866年に約7haの土地に鋳鉄によって建替えられた。この市場はレ・アールと呼ばれ、ナポレオン3世時代のパリ市長であったオスマンによって、都市改造計画の一環として建築された。設計は、かつてローマ賞を獲得したこともあるボザール出身の著名な設計家のV.バルター(Victor Baltard)であった。

当初、彼は組積造による市場を1棟建築したが、規模的にも、機能的にも不十分であったため、再度の設計により、機能的・経済性に優れた鋳鉄とガラスによる地上2階、地下1階の大規模な市場を10棟設計した。棟と棟はガラス屋根付きのアーケードでお互いに連結されていた。

建築以来パリ市民に親しまれたレ・アールであったが、1969年に市場はパリ市南部、オルリー空港近くのランジスの町に移転した。

そのためレ・アールは、美術展覧会・劇場・遊歩道等に利用されたが、2年後の1971年に惜しまれながら解体された。そして10棟のうちNo.8と称する1棟のみヴァンサンヌの森の東外れのノジャン・シュール・マルヌに移築された。レ・アールの跡地は、現在フォーラム・デ・アールと呼ばれる遊歩道を兼ねた広場となり、地下は商店街となっている。



商品取引所





レ・アールのあった跡地 パリ第1区 セーヌ川北岸



移り行くパリの街を見守るノートルダム大聖堂の怪獣たち

## レ・アールの諸元

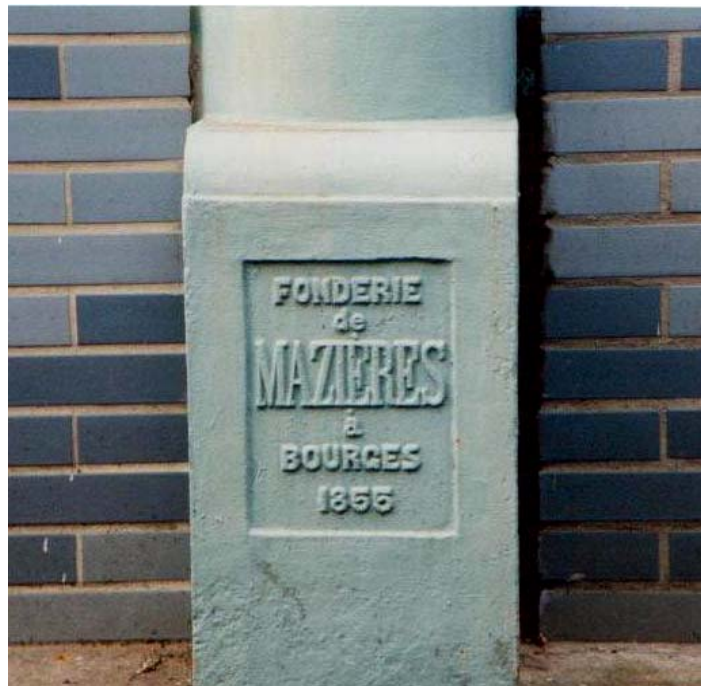
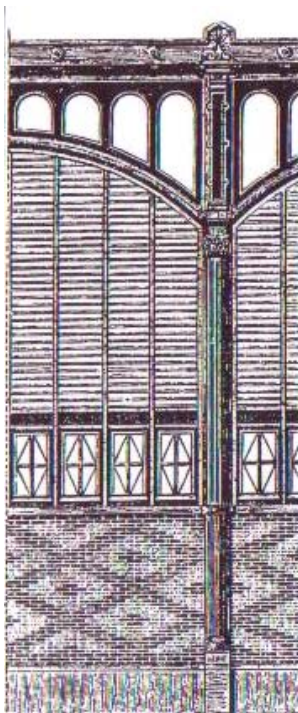
建築地	: パリ1区	建築規模	: 地上2階、地階1階 10棟
建築年	: 1854年	構造	: 鉄骨造 (鑄鉄使用)
解体	: 1971年	屋根	: ガラス張り
設計	: V.バルター		

## パリのパビリオン・バルター

現在、レ・アールの設計者の名をとった「パビリオン・バルター」が世界に2つ存在している。ひとつはヴァンサンヌの森の外れにあるノジャン・シュール・マルスに移築されたレ・アールの1棟である。この「パビリオン・バルター」は、展示会・音楽会・バレー・オペラなどのイベント会場として使用されている。パビリオンの有効面積は2,700㎡、収容人員は、最高2,000人である。



パリ ノジャン・シュール・マルスのパビリオン・バルター



1855年にブルージュのMAZIERESで鋳込まれている

## 横浜市のパビリオン・バルタール

レ・アールは、19世紀の鉄骨建築として貴重な学術的・文化的遺産であるため、横浜市ではレ・アールが解体された際、パリ市にその一部の移設を申し入れた。

その結果、パリ市当局の好意により、レ・アールの地下に使用されていた鉄骨柱13本と、その柱の繋ぎ梁としてのアーチ梁の寄贈を受けた。横浜市では、かつてフランス領事館があった「海に見える丘公園」に公園のモニュメントとして「パビリオン・バルタール」を1980年に復元した。部材の塗装の色はパリにあるパビリオン・バルタールと同じ色をし



横浜市「海に見える丘公園」のパビリオン・バルタール

### レ・アールが建築された時代のパリの主な建築

1852	パリ・東駅	F.A.デュスケネー
1852	パリ・北駅	J.I.イトルフ
1865	モンパルナス駅	V.ルノワール
1866	レ・アール・パリ中央市場	V.バルタール
1868	フランス国立図書館	H.ラブルースト
1868	パリ・オステルリッツ駅	P.-L.ルノー
1871	サン・トーギュスタン教会	V.バルタール
1875	パリ・オペラ座	C.ガルニエ
1876	ボンマルシェ・デパート	L. A. ボワロー、G. エッフェル

### レ・アール解体の反省が、歴史的建造物である現オルセー美術館を救った

1900年に建築されたオルセー駅は、1939年に廃駅となり、大戦中は捕虜や流刑囚の収容所になり、戦後はホテルとして1973年まで営業した。その後、解体案も出されたが、レ・アール解体の反省をもとに「歴史的建造物を取り壊すのは犯罪である」との声が起り、今日見る美術館に模様替えされて延命した。

#### 参考文献

- ・建築ガイド②パリ R. Salvadori 著 土居義岳訳
- ・「鉄と建築の歴史」 鋼構造出版
- ・「L'architettura del ferro」 Bulzoni編

著者：建築技術アーカイビング研究会委員 清水健次